

けんしゅうしましよ

4号

R5. 7. 5

文責 北垣

道徳 主題名 よく考えて行動する
中心内容項目 A-3
節度・節制
資料名 いっしょになって、わらっちゃだめだ
授業者 斎藤 早苗

6月26日(月)5校時、4年1組において、研究授業が行われました。授業を公開して下さった斎藤早苗先生、ありがとうございました。子どもたちが自分の意見を出し合う姿がとても素敵でした。

◇グループ討議から◇

○机の配置

少人数だからこそできる、子どもたちがお互いの顔を見ながら学習できるスタイルがとてもよかった。コロナ禍が明けた今、子どもたちの関わりをどうデザインしていくかは様々な視点から再考できるようになっており、机の配置もその一つということを改めて思い出させて頂いた。



○タイムマネジメント

導入から中心発問までのスピード感ある展開がよかった。

中心発問に十分な時間が確保できていたので、どの子も自分の意見を書くことができていた。

○子どもたちを同じ土台にのせる ～「いじめ」というおさえ～

教材文範読のあと、しっかりと「これはいじめである」というおさえをすることで、子どもたちの学びの方向性が確定され思考しやすくなっていた。子どもたちを自走させ、多様で自由な発言を促すために、欠かすことのできないポイントであった。

○価値理解と人間理解

本授業では、“自分で考え正しいと思うことを行う”価値と、“助けてあげたい”と思うけれど現実ではなかなか行動するのは難しいということに気付くことができていた。問い返しを重ねることで人間理解について考えを深めてから中心発問へ向かうと、よりその価値を重く受け止める事ができたのではないか。



○ペア交流の意図

本授業では、同じ意見の児童の交流と、異なる意見の児童の交流を行っていた。交流場面を授業に設定する際、授業者の意図する効果が得られるよう交流の仕方に様々な工夫が考えられるとよい。

○後援者

- ・見ている聞いているだけの児童へのアプローチ、念押し。
- ・価値付け「～ということかい？」と児童の発言をまとめ、クラス全体で共有できるようにする。
- ・ノートへの記述サポート。
- ・視覚支援で低位の児童も参加しやすくする。

◇助言者から◇

○テーマ発問と場面発問のおさえ

帯広小学校としてどんな発問をテーマ発問と捉えるのか、共通認識を図る必要があるのではないか。

○テーマ発問と場面発問の使い分け

大きなくくりで投げかけ、多様な思考を生み自走させる『テーマ発問』

(例)「〇〇が大切にしているものはなにか」

「〇〇の気持ちがかわっていくのはなぜか」

安全運転、軌道修正のための『場面発問』

この2つを効果的に組み合わせながら授業を展開していくことが大切である。

○『〇か×か』ではなく△も

賛成か反対かの2つの選択肢はなく、どちらでもないという考えや立場をより大切にしていくとよい。

○納得解を共有する時間の確保

共通解をまとめる段階で多くの時間を要し、その分納得解を共有する時間が少なくなってしまう。学びを生活に結びつける大切な時間なので、しっかり時間を確保できるようにしていくとよい。

○納得解の視点を各教科へ

納得解は学びと生活を結びつけるものであると考え、その意義は各教科においても大きいものである。「ぼくは今日算数で学んだことを、こんな場面で使ってみたい」のように、どの教科においても道德での納得解が目指している“学びと生活を結びつける”という視点を大切にしていってほしい。

